

第25回 全国聴覚言語障害者福祉研究交流集会 ～重度重複の聴覚障害児・者と高齢聴覚障害者の発達と権利を考える～ 開催要項

1. 開催主旨

この集会は、1985年「いこいの村の仲間と働き学ぶ、夏のとどい～重複・重度の聴覚障害(児)者の発達と権利を考える集会」から始まり、1996年から全国聴覚言語障害者福祉研究交流集会として発展し、今年で25年目を迎えます。

当事者、家族、支援者らがお互いの実践や思いを持ち寄り、学びあう中で、当事者がおかれてきた厳しい実態を明らかにし、制度の課題や支援のあり方を深めあう中で、子どもから高齢者まで、「ひとりぼっちの障害者をなくしていこう」と、全国の施設づくりの運動を励まし、その裾野を広げてきました。

その片方で障害者の強制不妊手術をめぐる国家賠償訴訟はその請求が次々と棄却され続けています。また、大阪府立生野聴覚支援学校生徒が被害に遭った交通事故をめぐる民事裁判では加害者側が「(被害女兒の)将来得られたはずの収入である逸失利益について、一般女性の40%で計算すべきだ」と主張し、ご両親の怒り、悲しみは全国に広がっています。「優生思想」はこの日本の社会にはびこる障害者への差別や偏見を助長し、様々な場面で形を変えてその姿を現します。だからこそ私たちは、その「根っこ」としっかりと向かい合いながら、それぞれの地域で生き生きとして暮らすなかまの姿、支える実践と未来を豊かに語りあいたいと思います。

本集会は、下記のこの3つの柱を目的として、開催します。

- ①事業所等における支援実践を持ち寄り、聴覚障害児・者福祉を前進させます
- ②聴覚障害児・者の生活や発達の要求を掘り起こし、新たに事業所等の創設を進めている地域での公的責任に基づく取り組みやその地域関係者を励まします
- ③聴覚障害児、重複障害者、高齢聴覚障害者・難聴者・中途失聴者の障害や実態、支援の特性を踏まえた制度づくりにむけた問題提起と制度改善に取り組みます

2. コンセプト

新型コロナウイルス感染拡大の影響により事業や運動に大きな影響を受けてきました。ワクチン接種等感染対策も進められていますが、収束は見通せないため、インターネットでの映像配信及び、オンラインでの分科会による集会を開催します。本集会ではコロナ禍で分断された人と人とのつながりの回復を目指し、多くの関係者、支援者の参加を呼びかけ、京都集会の成功が次の集会の発展につながるよう取り組みます。

3. 主催

社会福祉法人 京都聴覚言語障害者福祉協会

4. 共催

社会福祉法人 埼玉聴覚障害者福祉会
社会福祉法人 東京聴覚障害者福祉事業協会
社会福祉法人 大阪聴覚障害者福祉会
社会福祉法人 ひょうご聴覚障害者福祉事業協会
全国ろう重複児・者家族連絡会

5. 協力(予定)

社会福祉法人 滋賀県聴覚障害者福祉協会
社会福祉法人 千葉県聴覚障害者協会
特定非営利活動法人つくし
京都聴覚言語障害者の豊かな暮らしを築くネットワーク

6. 後 援

厚生労働省／(一財)全日本ろうあ連盟／(一社)全日本難聴者・中途失聴者団体連合会／(一社)全国手話通訳問題研究会／(一社)日本手話通訳士協会／(社福)全国盲ろう者協会／(社福)全国手話研修センター／全国障害者問題研究会／きょうされん／障害者の生活と権利を守る全国連絡協議会／全国ろう重複障害者施設連絡協議会／全国高齢聴覚障害者福祉施設協議会／(特非)全国聴覚障害者情報提供施設協議会／(特非)ろう教育を考える全国協議会／全国ろうあヘルパー連絡協議会／全国聴覚・ろう重複児施設協議会／全国難聴児を持つ親の会／(社福)全国社会福祉協議会

京都府／京都市／京都市市長会／京都府町村会／京都府教育委員会／京都市教育委員会／(社福)京都府社会福祉協議会／(社福)京都市社会福祉協議会／京都府耳鼻咽喉科専門医会／京都障害児者の生活と権利を守る連絡会／(一社)京都府身体障害者団体連合会／(公社)京都市身体障害者団体連合会／京都新聞

(順不同)

7. 開催期間

2021年12月1日(水)～12日(日)

①インターネット動画配信期間【12月1日(水)～12日(日)】

基調報告・記念講演・特別報告等を事前に収録し、YouTubeで配信します。
期間中は好きな時間に視聴できます。

②オンライン分科会【12月11日(土)・12日(日)】

12月11日に第一、第二、第三分科会を、12月12日に第四分科会と第五分科会をオンラインで開催します。

【分科会の開催方法が例年と異なります。ご注意ください】

重複聴覚障害者や高齢聴覚障害者、聴覚障害児、難聴者・中途失聴者等への実践レポートを募集します。9月末までに提出(レポート提出計画書は8月末締切)のあったレポートをもとに、12月11日・12日にオンラインで行います。第一分科会～第四分科会は司会者・共同研究者・レポート報告者による議論を深めます。第五分科会「家族の願いと家族会」は司会者・共同研究者・地域の選出者等による交流形式で進めます。

参加者は5つの分科会を視聴できます。

集会申込締切後に参加者に①と②の視聴用ID等を掲載した参加証を郵送します。

※コロナの収束が見通せない中で、このような形での開催になることをご理解ください。幅ひろい立場からの実践レポートの応募をお待ちしております。

8. 参加人数

500名

9. 大会参加費(資料・DVD代含む)

おひとり5,000円(学生3,000円)

10. 企画内容

《主催挨拶》 社会福祉法人 京都聴覚言語障害者福祉協会 理事長 高田 英一

《基調報告》 社会福祉法人 京都聴覚言語障害者福祉協会

《特別報告》 「ひとりぼっちをなくそう！コロナ禍の聴覚障害者福祉運動とこれから」

一般財団法人 全日本ろうあ連盟 理事長 石野 富志三郎 氏

一般社団法人 全日本難聴者・中途失聴者団体連合会 理事長 新谷 友良 氏

《記念講演》 「私たちはふつうに老いることができない
～親たちの体験から支援のあり方を問い直す～」
一般社団法人 日本ケアラー連盟代表理事 児玉 真美 氏



【プロフィール】

1956 年生まれ、広島県在住。フリーライター。一般社団法人日本ケアラー連盟代表理事。1987 年生まれの長女に重い障害がある。

著書に『海のいる風景—重症心身障害のある子どもの親であるということ』（生活書院 2012 年）、『殺す親 殺させられる親—重い障害のある人の親の立場で考える尊厳死・意思決定・地域移行』（生活書院 2019 年）、『私たちはふつうに老いることができない—高齢化する障害者家族』（大月書店 2020 年）など。

重い障害のある子どもを持つ母親への社会のまなざしや、「よき療育機能・介護機能であり続けるための支援」のあり方にさまざまな疑問を抱えてきました。目からウロコが落ちたのは、英語圏のケアラー支援に出会った時です。本来の支援とは「ケアラーその人が自分の生活や人生を—継続性を失うことなく—生きられるための支援」なのだ初めて知りました。親による介護は子どもがいくつになっても当たり前とみなされがちですが、「障害児者の親(家族)」も「ケアラー」と捉えることによって、「支援を必要とする人」として見えてくるのではないのでしょうか。日本でも「ケアラーその人を支える」というケアラー支援の考え方がもっと広がっていくことを願っています。

《京都聴覚言語障害者団体活動報告》京都聴覚言語障害者の豊かな暮らしを築くネットワーク

《次年度開催地域(東京)からのメッセージ》

《オンライン分科会》12月11日(土)・12日(日)

第一分科会 12月11日(土)9:30-12:00

「福祉実践と福祉制度のあり方を考える」

- ・共同研究者：石倉 康次（立命館大学教授）
- ・司会：佐藤 喜宜（ふれあいの里どんぐり施設長）

聴覚障害児・者の暮らしを支えていくために、障害者総合支援法や介護保険法など制度が担えない課題を整理し、今後の制度の在り方、取り組みや運動について討論します。

第二分科会 12月11日(土)13:00-15:30

「発達を支える（労働・発達・こころからの健康・集団づくり）」

- ・共同研究者：武居 渡（金沢大学教授）
- ・司会：今西 永里（いこいの村栗の木寮）

発達、労働、健康、コミュニケーション保障等について各地域・事業所等、様々な立場からの実践を持ちより共通する課題を明らかにし、議論を深めます。

第三分科会 12月11日(土)16:00-18:30

「地域生活を支える（重複・難聴・放課後デイ・地活）」

- ・共同研究者：渡邊 健二（全国ろう重複障害者施設連絡協議会会長）
- ・司会：中山 宝（たましろの郷施設長）

重複聴覚障害者や聴覚障害児、難聴者、中途失聴者が自由にコミュニケーションを図ることができる社会環境を整えるためには、既存の資源に加えて、新しい社会資源の創出、ネットワークづくりが大切です。どのような資源があれば、地域で豊かに暮らせるのか、また支援体制はどうあるべきか等を考えます。楽しく豊かな暮らしのために工夫されている実践を持ち寄り交流します。

第四分科会 12月12日(日)9:30-12:00

「高齢期を豊かに支える（在宅支援・施設の暮らしづくり）」

- ・共同研究者：大矢 暹（社会福祉法人ひょうご聴覚障害者福祉事業協会理事長）
- ・司会：記 由美（いこいの村梅の木寮施設長）

高齢聴覚障害者の「人として」の暮らしには、身体や認知機能の低下への支援だけではなく、安心してコミュニケーション支援を受けられる体制づくり、介護者家族同士の交流、地域社会で利用できる資源の活用や協力が得られるネットワークづくりが不可欠です。施設においては画一的なケアではなく、本人の願いに寄り添い、その人らしい人生を尊重し、生きることを支え、生きる意欲を創出するための援助や介護について実践交流します。

第五分科会 12月12日(日)13:00-15:30

「家族の願いと家族会」

- ・共同研究者：山口 慎一（全国ろう重複児・者家族連絡会顧問）
- ・司会：山本 規行（家族会副代表）、岡部 和美（家族会副代表）

重複障害児・者の親、家族が抱える悩みや思いを交流し、親・家族の置かれている実態を明らかにします。また、悩みや思いを率直に出し合い共有することで、孤立する家族をなくします。学びを共有し、今後の家族連絡会の在り方や取り組み、明日への希望につなぐ交流をつくります。家族だけでなく家族を支援する関係者の積極的な参加を呼びかけます。（教育関係者・施設や支援センター等で家族の相談にあたっている方、心理カウンセラーなど）

《なかま参加企画「わたしたちの作品展」》※別紙チラシをご参照ください。

1 2. 申し込み締め切り

別紙の参加申し込み用紙にて ~~9月30日(木)~~⇒**10月31日(日)**までにお申し込みください。

1 3. 第一分科会～第四分科会レポート報告申し込み締め切り

別紙のレポート計画書を8月31日(火)、レポートを9月30日(木)までにご提出ください。



参加申し込み先、問い合わせ先

社会福祉法人 京都聴覚言語障害者福祉協会

第25回全国聴覚言語障害者福祉研究交流集会事務局

専用ホームページは右のQRコードから⇒



〒604-8437

京都市中京区西ノ京東中合町2番地

FAX：075-841-8311 / TEL：075-275-8021

Email：zenfuku-kyoto@kyoto-chogen.or.jp